

フランス教育学会

第 42 回大会プログラム

2024 年 9 月 7 日(土)～8 日(日)

大会日程

【第 1 日：9 月 7 日 (土)】

理事会 13:00～13:50 来往舎 小会議室
受付 13:30～ 来往舎 シンポジウムスペース
総会 14:00～14:45
開会 14:50～15:00
シンポジウム 15:00～18:20
テーマ：フランス植民地教育史研究の実態と展望
※基調講演はオンライン
情報交換会 18:30～19:30

【第 2 日：9 月 8 日 (日)】

受付 8:45～ 来往舎 大会議室
自由研究発表 9:00～11:30

〒223-8521 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 日吉キャンパス
慶應義塾大学 教養研究センター フランス教育学会
フランス教育学会第 42 回大会実行委員会
準備委員 ソットイーレ マルコ
電話 045-566-1302 (ソットイーレ研究室直通)
E-mail : msottile@keio.jp

会場：慶應義塾大学来往舎(日吉キャンパス)
共催：慶應義塾大学 教養研究センター

【大会第1日：9月7日（土）】 来往舎 シンポジウムスペース

総会

14:00～14:45

シンポジウム

15:00～18:20

テーマ：フランス植民地教育史研究の実態と展望

シンポジウム・テーマ趣旨

ムスリム女子児童・生徒の服装をめぐる論争（「スカーフ論争」：1989年、2003年、2010年；「アバヤ論争」：2022年）、2012年以降のイスラーム過激派によるテロ事件、その中で起こった学校教員を狙ったテロ事件（2020年、2023年）、そして「バンリュウの若者 jeunes de banlieue」による「暴動」（2005年、2023年）という状況を背景に、旧植民地出身の移民とその移民にルーツを持つ子どもたちをめぐる社会統合の「フランス的共和制モデル」の問題点や課題が浮き彫りとなり、フランスの教育現場に多くの課題が生じている。道徳・市民科の授業をめぐる「ライシテの価値観」の強化、「表現の自由」や「宗教的事実」の教育に関する議論のほかに、歴史科の授業をめぐる植民地時代における「フランスの存在の肯定的役割」（2005年）や「植民地的事実」の教育（2015年）に関する議論もその表れである。フランスの植民地支配の歴史認識をめぐる議論はフランスにとどまることなく、北アフリカと西アフリカの国々にも影響を及ぼしている。本シンポジウムは、植民地史の中で特にフランス、アルジェリア、日本におけるフランス植民地教育史研究の実態と展望に着目して、これらの研究が、フランスの植民地支配の歴史認識や学校現場の「植民地的事実」の教育に対してどのように貢献ができるのかを明らかにしようとするものである。

基調講演：

Pr. Carole REYNAUD-PALIGOT (Université Paris 1 Panthéon Sorbonne、オンライン参加)

パネリスト：

報告1	越水 雄二会員（同志社大学）
報告2	谷口 利律会員（早稲田大学） 渡邊 祥子氏（東京大学）
報告3	渡邊 祥子氏（東京大学）
指定討論者	平野 千果子氏（武蔵大学） ソッティエーレ マルコ会員（慶應義塾大学）
司 会	園山 大祐会員（大阪大学）

情報交換会

18:40～19:40

【大会第2日：9月8日（日）】 来往舎 大会議室

●自由研究発表

9:00～11:30

司会 小山 晶子会員（東海大学） 阿部 弘会員（東京国際フランス学園）

9:00～9:30

フランスにおける「教育都市（Cité éducative）」施策とローカルな教育ネットワークの形成
——パリ郊外の諸自治体による社会的・都市的背景を反映した取り組みの変化——
村上一基（東洋大学）

9:30～10:00

フランスの留学生政策：EU 外学生の特定登録料と 2024 年移民法を巡って
大場淳（広島大学高等教育研究開発センター）

10:00～10:30

フランスの美術教育と芸術文化教育に関する一考察——指導者養成の観点から——
小笠原文（福井大学）

10:30～11:00

フランスのリセにおける英語授業——授業見学と教師へのインタビューに基づいて——
横関木蘭（青山学院大学大学院文学研究科英米文学専攻）

11:00～11:30 総括討論

大会参加要領

1 大会参加申し込み

大会参加御希望の方は、8月26日(月)までに実行委員会に Google フォームでお申し込みください。

下記の申し込み書式より、必要事項を記入の上、「送信」ボタンを押してください。なお、申し込みフォームはフランス教育学会公式 web サイトの大会案内ページからもアクセスできます。申し込みをされた方には、8月31日(土)までに『発表要旨集録』をメールにて送付いたします。連絡メールが届かない場合は、大会実行委員会までメールでお問い合わせください。

Google フォーム：

https://docs.google.com/forms/d/1m-OUQsyUE3yrt1os1vqd_TcDiBiG78imFLSIIL16HUI/edit



フランス教育学会 HP：<https://ajref.sakura.ne.jp/ajref/>

2 大会参加費

一般会員 3,000 円、学生会員 1,000 円、非会員 1,000 円となります。参加費は、当日大会会場でお支払いください。

3 情報交換会費

一般(会員・非会員とも) 4,000 円、学生(会員・非会員とも) 2,000 円となります。参加費は、当日大会会場でお支払いください。

4 自由研究発表

発表 20 分、質疑応答 10 分です。グループ発表は、40 分(発表 30 分、質疑応答 10 分)です。

5 会場までの交通アクセス

以下をご覧ください。

<https://lib-arts.hc.keio.ac.jp/center/access/>

6 飲食の情報

大会当日、食堂・売店とも開いていません。各自事前に用意ください。なお、日吉駅近隣にコンビニやレストランはあります。懇親会(情報交換会)はキャンパス内で開催します。近隣にコンビニやレストランはあります。懇親会(情報交換会)はキャンパス内で開催します。

2024年8月

関係各位

フランス教育学会第42回大会実行委員会

「フランス教育学会第42回大会プログラム」の送付について

拝啓 時下ますます御清祥のことと存じます。

フランス教育学会第42回大会は、来る9月7、8日に、慶應義塾大学（日吉キャンパス）で、慶應義塾大学教養研究センターとの共催にて開催いたします。ここに大会プログラムを送付いたします。ぜひ御参加いただけますよう、お願い申し上げます。

第42回大会の開催を本学で行うことができることとなり、大変光栄に思っております。一日目のシンポジウムは「フランス植民地教育史研究の実態と展望」と題し、フランスと日本におけるフランス植民地教育史について考察する企画を設けました。本シンポジウムでは、Pr. Carole REYNAUD-PALIGOT (Université Paris 1 Panthéon Sorbonne)の公開オンライン講演（逐次通訳付）「フランスにおける植民地教育史研究」（仮）を予定しております。参加者の皆様には、今後の学会の展望に向けて、活発な議論をしていただけることを期待しております。

二日目午前の自由研究発表につきましては、4名の会員に発表申し込みをしていただくに至りました。皆様の積極的なご参加にお礼申し上げます。若い方からベテランまでいらっしゃいますが、ぜひ活発な議論が繰り広げられますことを期待いたします。

酷暑の日々が続いておりますが、皆様の御健康を心よりお祈り申し上げます。

敬具